

いつも ありがとう

倉敷市立大高小学校

二年生 三村結花

わたしの 家の すぐ そばに、よく 犬の お世話を している おじいさんが います。その おじいさんは、 用水ろの ごみを とったり、近じよの そうじを したり しています。わたしを 見かけると、

「こんにちは。」

と、あいさつを してくれます。わたしは、やさしくて、一生けんめいな おじいさんだなあと 思いました。

わたしが 小学一年生に なったとき、学校の 行き帰りの 道に、おじいさんは 毎日 立っていました。学校の 休み時間に、こまの 回し方を 教えるに きてくれた ことも ありました。

わたしは、みんなが じこに あわないたために 見まもってくれたり、学校で 楽しく すごせるように あそんで くれたり、すごい 人だなあと 思いました。

おじいさんは、その ほかに、クリスマスの ころに、サンタクロースの かっこうを して だんちの 子どもたちにおかしの プレゼントを してくれる ことも ありました。みんな、おじいさんと いっしょに、しゃしんを とりました。楽しくて、すごく うれしかったです。

お父さんに 聞いた 話だと、おじいさんは、大雨で 用水ろの 水が あふれそうな ときには、ロープを はって、近じよの 人が おちないように したり、足が わるくて かいものに 出かけられない 人の ために おべんとうを買って とどけて あげたり していると、いうことも 分かりました。わたしは、おじいさんは、人の ことを たくさん 考えることが できて、本当に すごいなあと 思いました。わたしは、家で やらなくちゃ いけない ことや、たのまれた ことを

「めんどくさいなあ、やりたくないなあ。」と、後回しに したり、もんくを 言って しなかったりす

ることがあります。ごはんのときに、すききらいを
して食べないものもあります。

わたしは、おじいさんのように、りっぱな人にはなれないなあと思いました。

ある日、学校に行くときに、いつも立っている場所に、おじいさんがいませんでした。家にかえって聞くと、おじいさんの家にきゅうきゅう車が止まっていたことが分かりました。

わたしは、おじいさんのいのちがたすからないかもしれないと、心ばいでかなしい気もちになりました。

おじいさんは、自分のことよりも、まわりの人のことを考えて一生けんめいがんばっていました。わたしは、家のことやごはんも、お母さんやお父さんがわたしのことを考えてしてくれたり、作ってくれたりしていると、思いました。だからわたしは、できるだけすききらいをせずに食べたり、学校でも友だちにしんせつにしたりしようと思いました。

何日か後に、学校からかえると、おじいさんは元気に犬のおせわをしていました。

おじいさん、いつもありがとう。